

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 7 月 14 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科（5年一貫制）博士課程学生
氏名	大塚亮真

1. 派遣国・場所 （〇〇国、〇〇地域）
愛知県犬山市
2. 研究課題名 （〇〇の調査、および〇〇での実験）
PWS 動物園・博物館実習
3. 派遣期間 （本邦出発から帰国まで）
平成 28 年 6 月 25 日 ～ 平成 28 年 6 月 28 日（4 日間）
4. 主な受入機関及び受入研究者 （〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士／〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏）
公益財団法人日本モンキーセンター 附属動物園園長 伊谷原一先生
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 （研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由）
今回私は PWS の動物園・博物館実習へ参加するため、愛知県犬山市の日本モンキーセンター（JMC）を訪れた。
【日程】
6 月 25 日：京都駅→名古屋→犬山/JMC についてのレクチャー、園内見学
6 月 26 日：園内見学、来園者の会話調査/科学コミュニケーション実習
6 月 27 日：獣医見学/標本実習
6 月 28 日：飼育実習/霊長類基礎セミナー（野外調査・行動観察）
【1 日目】
JMC に到着後、伊谷先生から日本モンキーセンターに関するレクチャーをしていただいた後、園内を見学させていただいた。主にモンキーセンターの歴史やユニークな施設について学んだ。
【2 日目】
午前には 1 日目に見れなかったところを回りつつ、来園者の会話調査を行う動物を決めて、会話調査を行った。私はアフリカセンターのニシローランドゴリラ (<i>Gorilla gorilla gorilla</i>) のタロウの前で来園者の会話に耳を傾け、滞在時間と会話内容を記録した（来園者のプライバシーに配慮して記録する会話の内容は動物に関するもののみとし、園内放送と張り紙によって調査のことを事前にお知らせした）。来園者の平均滞在時間は予想していた 3 分より少し短い 2 分 10 秒ほどであった (N=10)。しかし、短い人は 20~30 秒ほどで通過しており、タロウが来園者の近くにいたこと、起きていたこと、ペットボトルで水を飲んだことなどから一部の来園者の滞在時間が大きく伸びたことで平均滞在時間に反映されていることは留意しておかねばならない。会話の中で多く出てきたワードは、「でかい、大きい」、「かわいい（女性のみ）」、「ヒト科」、「原西ゴリラ」などであった。かわいいという発言は女性のみに見られ、男女間でのゴリラに対する認識の差に興味を抱いた。またテレビの中の人気企画の影響が年齢に関係なく現れていたのも興味深い点であった。
午後は科学コミュニケーションに関するレクチャーと実習を行った。レクチャーでは科学コミュニケーションとは何かということ、基礎的な観点と実践的な観点から実体験を踏まえて教えていただいた。実習では午前には調査を行った動物の前で、来園者の方々にその動物の魅力を伝えるということに挑戦した。私はニシローランドゴリラのタロウさんの魅力を伝えるため、見た目にはわかりやすいシルバーバックや足の指のつきかたなどについて伝えたいと思っていた。多くの方々とお話することが出来たが、来園者の中にはゴリラをもともと好きな人（あるいは何回も見に来ている人）がけっこう多く、当初の予定通りに説明することは出来なかった。その中でも相手に何気ない質問をすることからはじめ、相手のニーズを探り、雑談や自分の知識・経験を交えつつゴリラの魅力を伝えることが出来たと思う。しかし 1 人の子供がゴリラを怖がって泣いてしまっていたがそのような場合、ゴリラの魅力を伝えることは難しいと感じた。親御さんに説明をしたことが、家庭内で親御さんからその子へ伝わっていただければ良いと思う。
写真（必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの）の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

【3日目】

午前は獣医師さんの仕事を見学させていただいた。カニクイザルの抜糸の様子、マンドリルにインプラントとマイクロチップを入れる様子、ワオキツネザルの首の怪我の治療の様子を見学した。

午後は動物園/博物館展示に関するレクチャーを聞き、動物園の歴史やさまざまな展示方法について学んだ。その後は標本実習を行った。標本実習では死亡した個体を標本にするための作業を見せていただき、そのあと、別の個体の骨を部位ごとにまとめて保管するという作業を行った。骨のかたちや構造をしっかりと観察して、どの部位のどの骨とつながっているのかを考えながら骨を整理していったことで、身体の中でどのような動きをしているかが良くわかった。

【4日目】

午前は飼育実習を行った。私が実習を行ったのは北館のテナガザルたち、ヤクザル(*Macaca fuscata yaku*)たちのゾーンで、まずはそれぞれの様子を見て回ったあとヤクザルにエサやりをした。JMCのヤクザルたちは屋久島で見たヤクザルと異なる点があくつかあった。そのひとつとして最も特徴的だったのはイモ洗い行動であり、イモ洗い行動をするヤクザルたちは、だいたい1頭あたり1, 2個のイモを10分ほどかけて食べていたようであった。その後はフクロテナガザル(*Symphalangus syndactylus*)やシロテナガザル(*Hylobates lar*)たちへのエサやりとそうじを行った。エサをまくときには、木の枝に刺したり、少し高いところに乗せたりなどして、テナガザルたちがエサを探して食べられるように工夫した。実習だったためのんびりやってしまったが、実際にはスピードも必要で飼育員さんの手際の良さに驚いた。

午後は野外観察、行動観察についてのレクチャーを聞き、野外調査の楽しさを再確認することが出来た。



写真.1 ニシローランドゴリラの剥製



写真.2 まいたイモを洗って食べるヤクザル



写真.3 エサをまいたところ



写真.4 まいたエサを食べるフクロテナガザル

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

6. その他 (特記事項など)

動物園・博物館実習には PWS のご協力により参加することが出来ました。ご支援いただいた PWS に感謝申し上げます。またお世話になりました日本モンキーセンターのみなさまと一緒に実習に参加したみなさんに心より感謝致します。